

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（招聘）
研究交流報告書①

報告日：2019年3月5日

招聘者氏名	上杉 裕子
被招聘者氏名	Dr. Kanittha Rattanakanlaya, Dr. Rangsiya Narin
被招聘者 所属機関・職位	Assistant Professor Faculty of Nursing, Chiang Mai University.
<p>2019年2月26日 16時—19時30分、神戸大学大学院保健学研究科 B204Iにおいて、男性大学院生：伊藤亘、女性大学院生：市川暢恵、北川恵、溝畑智子、佐野かおりらと、「海外在住日本人高齢者の健康について」、 「Discrepancy of Nursing practice between Indonesian and Japanese nurses」についてのテーマで研究交流を行った。</p> <p>これら大学院生の研究テーマについて、ディスカッションを行い、Dr. Kanittha Rattanakanlaya, Dr. Rangsiya Narin から有用な示唆を得た。「海外在住日本人高齢者の健康について」のテーマでは、高齢者の健康課題として、海外在住者の高齢化による身体機能の低下から起こりうる問題を共有した。研究デザインについての有用な意見をいただき、研究デザインの見直しをすることを考えることとした。Dr. Kanittha Rattanakanlayaからは「General surgical nursing」の視点からの意見も得られた。</p> <p>「Discrepancy of Nursing practice between Indonesian and Japanese nurses」のテーマでは、被招聘者教員よりインドネシアの宗教的背景から、ムスリムの住みやすい中東などへの看護師の流出や、他の国の例として、フィリピン人看護師のアメリカやイギリスなど英語圏への流出についての課題があることなどの知見が示された。また日本の少子高齢化と将来深刻になると予測される介護力の低下についての問題は、タイ国も直面するであろう問題であり、それらを外国人の労働力で緩和できるのかということについても話し合った。異文化を反映する看護をどのように充実させ、日本の保健医療システムに反映していくのかについて話し合った。以上の内容を大学院生、日本人教員とともに共有し、今後の研究の発展に活かすこととした。</p>	

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（招聘）
研究交流報告書②

報告日：2019年3月27日

招聘者氏名	上杉 裕子
被招聘者氏名	Dr. Patcharee Woragidpoonpol
被招聘者 所属機関・職位	Associate Professor Faculty of Nursing, Chiang Mai University.
<p>2019年3月25日 17時—19時30分、神戸大学大学院保健学研究科 B204において、女性大学院生：市川暢恵、北川恵、溝畑智子、男性大学院生：伊藤亘、女性教員：上杉裕子らと研究交流を行った。</p> <p>まず、日本人大学院生からのプレゼンテーションとして、①溝畑智子が「The Current Situations and Challenges of aging for Brazilian Residents in Japan」 ②市川暢恵が「Discrepancy of Nursing Practice between Indonesian and Japanese Nurses」の内容で発表した。</p> <p>Dr. Patcharee Woragidpoonpolからは、①に対して、どのような対象者にどのような問題意識をもってこの研究に取り組むのかをクリアにすること、インタビューガイドの焦点化を図ることの示唆を得た。②に対しては、各国の文化を反映した看護についてのテーマであるため、その定義を明らかとして取り組むことの示唆を得た。</p> <p>その後、Dr. Patcharee Woragidpoonpol より「Reflection and Lessons from My Research Journey」のタイトルで講演をいただいた。内容は女性研究者として、留学・結婚・出産を経ていかに研究活動との両立を図ったかも交えながら、研究テーマである「Development of a clinical pain scale for preterm neonates」についての詳細な内容であった。「子供の痛み」「新生児の痛み」「未熟児の痛み」と小児分野における痛みの研究を探求した継時的取組と、研究に取り組むまでの詳細なliterature review がいかに重要か、自らの研究テーマの探求のために今後に取り組むべき研究手法も含めての紹介がされた。</p> <p>以上の内容を大学院生、日本人教員とともに共有し、今後の研究の発展に活かすこととした。</p> <p>またタイ国と日本の文化がそれぞれ生活にどのように影響しているのかについてのディスカッションを行い、看護に必要な文化的知識についての共有を図り、今後の女性研究者間での共同研究の礎を築くことができた。</p>	

その後の研究交流の進捗状況
(2020年2月現在)

招聘したDr. Rangsiya Narinとはこのプログラムをきっかけに上杉との研究交流をより発展することができた。

2019年9月21日より2020年1月4日まで、「Community engagement to promote health literacy among senior citizens in a community: international comparative study project」として神戸大学招へい外国人研究者として再び神戸大学保健学研究科で受け入れ、上杉とともに高齢地域住民の健康やヘルスリテラシーについてディスカッションし、「Health Literacy and Health-related QOL among Japanese Elderly who live in Thailand and Japan」の研究論文の執筆中である。